

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891300044		
法人名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団		
事業所名	グループホーム村いちばんの元気者		
所在地	兵庫県丹波市市島町上竹田2322-1		
自己評価作成日	平成24年8月5日	評価結果市町村受理日	2012年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①「村いちばんの元気者」の名にふさわしく、介助が必要になっても、持てる力を発揮できるような支援(日常生活、就労支援)
- ②併設特養と連携し、レクリエーション活動に参加
- ③職員の意識向上のための研修(理念、コンプライアンス、認知症、介護技術、医療等)
- ④地域の方を対象にした認知症啓発活動(福祉教育、合唱団、屋台村等)

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前が小学生の通学路になっており、登下校時に元気な子どもの声が聞こえる。拾ってきた猫を見せにた立ち寄り、利用者との交流も行われている。昨年度からの利用者の就労支援(利用者の特技や残存能力を活かした働きを就労と捉え、法人の各施設に紹介、活用する)に加え、今年度から新しく利用者の夢をかなえる支援を始めた。職員、他利用者との信頼関係のもと、自信を回復し、自己実現を図っていく興味深い取り組みである。管理者は職員に対し、利用者の夢の実現に向けた関わりの過程を大事にしてほしいと考えている。職員の待遇では、パート職員も含め全職員が研修や、メンタルヘルスケア、休暇の取得等、無理なく働ける環境が整備されている。事業所に対しては、認知症理解の啓発活動や防災面での福祉避難所等、地域での役割に多くの期待が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議前には全員で理念の唱和をおこなっている。ケアの中に意識して活かせるように取り組んでいる。	法人の憲章、職員の倫理綱領を基本にし、家庭的な暮らし・地域とのつながり・家族とのきずな・その人らしさ・安心・安全の「5つの大切」を利用者の笑顔と寄り添うケアにより実践している。利用者に対する立ち位置を決め、ゆるぎないケアを実践するためにも、常に理念に戻っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたよりをグループホーム近隣にも配布し、理解を求めている。買い物や受診など地域に出かけている。	地域のスポーツ大会や祭り等に出かけている。利用者職員で運営する「屋台村」や施設の行事に地域の人々も参加している。日常的には、朝夕食の食材を職員とともに買い物に行ったり、登下校の子どもたちとのふれあい等地域の一員としての交流がなされている。小学校等で認知症講座を継続し、地域への啓発にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校での認知症啓発活動は続いている。地域への啓発活動を広げる検討が必要		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践できている。いただいた意見を検討し、サービス向上に反映できている。	自治振興会、家族会、介護保険課等関係者が参加して、定期的に開催している。利用者の現状、職員の状況、決算報告、第三者評価等事業所報告を行い、その後の意見交換では異なった視点からのアドバイスももらえ、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホームネットワーク会議を通じ丹波市介護保険課との円滑な関係が築けている。	運営推進会議に介護保険課長が出席、2か月毎のグループホームのネットワーク会議にも介護保険課の職員が出席し、利用者の暮らしぶりや課題の情報共有が行われ、双方の連携が深められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解している。常に身体拘束の理解と意識付けに向けて研修が必要	ミーティング、ユニット会議やその都度の話し合いで理解を深めている。「3ロックしていませんか？(フィジカルロック、ドラッグロック、スピーチロック)」の掲示も行い、身体拘束をしないケアに努めている。離床センサーマットについても、家族から同意を取っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あったかサポート等を利用し日々の振り返りをおこなっている。また、施設内に掲示物をはり、虐待防止に努めている。	職員の日々の対応を振り返るため、具体的な項目で自己評価を行っている。評価し続けることで、気づきが深まり虐待の防止にもつながっている。所長、課長、管理者が職員の話をよく聞き、パート職員も、常勤職員と同じく、年間5日間の特別休暇も取ることができ、働きやすい環境整備がなされている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成15年から法人全体で「あったかサポート運動」に取り組んでいる。利用者の人権を守るための具体的な目標を設定している。	管理者は権利擁護に関する制度について理解しており、必要に応じて活用の支援を行っている。現在は制度利用者はいない。職員は制度が目指す利用者の人権尊重について学び、日々の関わりを通して実践している。	利用契約時、制度に関する資料を利用者、家族に提供し、概要を紹介されてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも説明を求められるときにはきちんと説明している。 改定等があれば文書で説明している。	重要事項説明書をもとに、十分時間をかけて説明している。特に、利用料金、緊急時対応、退所時対応を重点的に伝え、転倒や施設しないこと等のリスクについても納得が得られるよう説明している。見学は随時可能。料金改定時は家族会を開き、理解、納得が得られるよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月ごとのカンファレンス時や面会時など必要時には意見をうかがっている。 いただいた意見(苦情)等は張り出しを行い、改善に努めた。	家族会に事業所周辺の草刈りを依頼したところ、男性が多く出席し、終了後、職員、家族同士で、利用者にとっても有益な話し合いができた。今後も様々な家族との話し合いの場を作って行きたいと検討している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日々雇用職員と個人面談を行い、意見を聞く場を設けた。 ミーティングやユニット会議などでも意見を聞く機会を設けている。	職員提案制度の活用や事業所の会議等で職員は意見、提案を行っている。法人は、パート職員にも代表者が意見を聞く機会を設け、研修の参加も奨める等の人材育成に積極的に取り組んでいる。職員から、利用者主催の行事等を支援する具体的な意見も出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化が見られる中で、個々の職員は努力している。給与の改定もあった。 代表者は引き続き個人面談をおこなって欲しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修機会を増やし、個々の力量を伸ばしたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議などで、他のグループホームとの意見交流はできている。 相互訪問や勉強会を行えるよう検討が必要。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は利用者本人は特に不安なことが多い。職員との関係作りがその後の生活の安定につながる大きいため、初期は重視している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の家族様の想いや困っていることにも注目し、話を聞いている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ、自宅での生活と変わらない方法を取り入れ、必要な支援を行えている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りや縫い物などできることはしていた。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に訪問していただける雰囲気作りをしている。また、必要時には通院などにも関わっていただいている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への訪問が数件できた。 受診時には気軽に知人の方に声をかけていただいている。	利用者の特技を活かした活動で知人に会ったり、かかりつけ医の受診等の地域へ出かける支援を通して、馴染みの関係が継続できている。誕生日や法事、買い物ついでに自宅に帰る人もいる。近隣をドライブ中、職員が利用者や地名を言いながら町を回ったら、懐かし話が弾んだ。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に席の配置には気を遣い、落ち着いていただけるように相性には配慮している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の相談等はなし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ思いや希望に添えるように日々の言動等に注意している。思いや希望が言える雰囲気作りを大切にしている。	今年度は利用者の夢をかなえる取り組みが始まった。信頼関係を築き、夢を語ってもらう過程を大事にしながら、職員は利用者から何がしたいか等、本人の思いを聞き取っている。聞き取り困難な場合は、家族、職員の気づきから推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中に馴染みの生活が取り入れられるように努力している。ケース記録を基に振り返るケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方のパターンを大切にしている。心身の状態やできることの把握はマーケティンググループホーム等で把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様だけでなく、家族にも意見を聞き、介護計画を作成している。	アセスメントから課題を抽出し、看護師、主治医から身体状況を聞き取り、どう関わるかをまとめている。担当者会議には家族も加わり、本人の思い、家族の安心等を検討し、計画を作成している。できることをさらに伸ばせるよう取り組み、フローごとにモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の困っている事柄は書けているが、良いことの内容が少ない。また、緊急時などに必要な記録が少なく、必要な記録の書き方の研修が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夕食が楽しくなるような工夫を取り入れ、利用者様の声に応えている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にお便りを配布し、グループホームをより知っていただくように努めている。屋台村等で地域の方との交流を深めたい。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院されているかかりつけ医に引き続き受診している。大きな病院への定期受診は家族様にも協力を頂いている。	希望を大切に、職員が家族の代わりにかかりつけ医の受診が支援されている。遠方の受診は同行し、受診前後は家族と連携を密にして適切な情報が伝わるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状況を適切に相談できている。受診の調整や薬の管理も適切におこなえている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会や必要な情報の提供、収集をおこない退院前にはケア・看護の方法のカンファレンスをおこなっている。	日常の状態把握の徹底と変化の予測、かかりつけ医、利用者家族とも情報交換できている。早期の退院に向けた担当医、看護師との情報交換も密に行い、関係作りに努めている。隣接の総合病院にも訪問し、関係づくりを行いたいとしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度はターミナルケアの研修に取り組んでいる。現時点でターミナルケアを実施することはできないが、「人一人を看取る」ことがどういことなのかを中心に職員の精神的な育成を図っている。	本人や家族の意向を確認しながら早い段階で家族と話し合っている。人を看取るということは“生きているケア”につながるとして、ターミナルケアの知識、技術の習得の為、職員研修に現在力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法や応急手当の方法を定期的に確認する必要がある。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や地元消防団に訓練の様子を見てもらい、意見等をもらっている。緊急連絡網を使用し、伝達訓練も実施した。	年2回消防避難訓練を行っている。地元消防団も協力しての訓練で、煙を発生させての避難訓練を行い、自然災害時の備蓄も十分に確保し、全職員が危機管理意識を身につけている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性職員が増え、同性介助ができない時がある。利用者に合わせた支援方法の確認を常に行う必要がある。	利用者個々の気持ちを大切に考え、誇りを傷つけないようなさりげないケアを心がけている。言葉遣いは、親しみの中にも馴れ合いにならないように職員同士で注意し合える雰囲気作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夕食の献立を利用者と一緒に考えたり、買い物に行って、材料を選らんでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや都合による流れになることが多いが、就寝までの時間にカラオケなど楽しめる時間も取れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選択しておられる方は少ないが、できるだけ自分で選んでもらうように促している。また地域的美容院で毛染めを行う利用者もいる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が相談しながら調理をする機会が増えた。作り方や味付けを教えることもできる。昼食、夕食は利用者と一緒に作ったものを職員がいただいている。	昼食は調理済みの食事が法人から届く。利用者の状況に合わせて無理のないように、朝夕食は利用者と職員で買物、調理と一連の作業を行い、とても楽しい活動となっている。今年6月から職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量には気を付けている。状態によっては食べやすい形態などに変更して、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	何名かの利用者様には口腔ケアの実施、声かけをおこなっている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に排泄前のサインを見逃さないように気を付けている。トイレの場所が分からない方にはわかりやすく表示をしている。	個々の排泄記録をもとに誘導し、排泄の自立を心がけている。現在では半数以上が声かけで自立排泄となっている。トイレでの排泄を基本とした介護を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、利用者の定期的な排便周期を知るとともに、便秘の利用者には、食事や運動を行い、できるだけ自然な形での排便を目指している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の様子をうかがいながら入浴していただいている。	利用者の希望があれば毎日入浴。基本的には2日に1回の入浴。時間も昼間14:00～16:00で個浴の支援がなされている。朝風呂を楽しむ利用者もあり、個々の要望を優先させ、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に不安が強い方などは和室を利用し、少しでも不安解消ができるように努めた。一人掛けのソファなどでいつでもゆっくりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切な服薬を支援している。薬の内容や副作用などは、ミーティングで看護師より説明を受け理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある場所に出かけたり、気分転換に畑作業を取り入れている。してくださったことにはきちんと感謝を表している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化して外出が難しくなっている方は外出回数が減っている。できるだけ希望の場所へ行けるように努めている。	日常的な支援として、気分転換を図るために、法人の喫茶店、お茶会、月2回の映画鑑賞、朝夕近くのスーパーに買物等の外出は行っている。特別な楽しみとして今回、食事会も計画している。できるだけ希望に添った外出ができるようにしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つこと、使うことの理解はできている。今年から買いもの時には、自分のお金を持てるように準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人への手紙のやり取りの支援ができている。 初期の段階では、家族様にも電話や手紙が早く生活に馴染んでもらえる手段であることを伝えている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に生活していただけるように清掃や室温には注意している。壁画など季節感を出すように努めている。 写真を貼り出すスペースを設けた。	共用空間には季節感のある額、手作りの装飾で美しく快適な空調管理で、清掃も行き届いている。“みんなの広場”のスペースが設けられ職員の似顔絵も飾られている。今回のカラオケ機設置は、利用者の喜びともなり、より居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを配置し、気分転換できるようにして一人になれる工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。逆に家具が危険になる場合はきちんと説明して持ち帰っていただいている。	居室はベッドや畳敷きの部屋もあり、個人の好みの机や椅子、手作りの作品、湯沸しポット等、その人らしい生活に必要な馴染みの物が持ち込まれ、温かい雰囲気も感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態が悪くなると、手すりを設置するなどして対応している。 張り紙などの工夫でできるだけ自立して生活ができるようにしている。		